



留学だより No. 5

こんにちは！最近はだんだん日が長くなってきてうきうきしています。3月初旬くらいまで学校に行くときや帰るときに真っ暗だったのが、今は明るくなり、そのまま夜の八時半くらいまで明るいです。夏が楽しみです。

今回は、新年の過ごし方、AFS の留学生達と一緒にいったスキーウィークについて書こうと思います。

Bonne année 2023

Bonne Année は、「良い年を」という意味です。日本の「明けましておめでとう」、英語の「ハッピーニューイヤー」に相当します。フランス人は、年が明ける瞬間に Bonne Année と言って、みんなとビズ（フランスのあいさつの一部である、頬同士のキス）をします。特に決まった慣習はこれだけで、日本のおせち、初詣のような伝統はありません。私は、グラントペアレンツの家にホストシスター達と行って、カードゲームをしながら過ごしました。ホストペアレンツは、友達の家に行っていました。フランスでは、新年は家族や親戚とではなく、友達や恋人と過ごすのが一般的です。日本のクリスマスと同じ感じですが。フランスと日本では、クリスマスとお正月の一般的な過ごし方が逆転していますね。

エピファニ

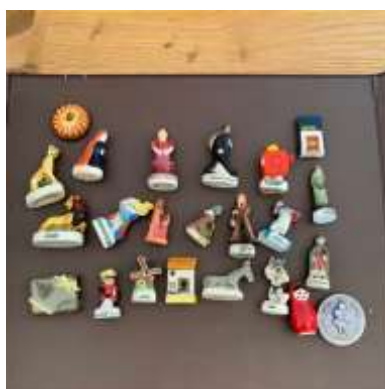
1月6日はエピファニです。キリストの生誕を見に、東方の三博士が来た日です。この日はガレット・デ・ロワ(galette des rois、王様のガレット)という下の写真のようなケーキを食べます。



このケーキの中には、陶器かプラスチックで作られている「フェーブ」と言われている小さいオブジェがどこかに埋まっています。この下の写真のように、種類はいろいろあります。

「フェーブ」は「豆」という意味で、昔は本物の豆が使われていました。

フェーブが入っているパートをもらった人がその日の王様になります。(と言っても王冠とフェーブをもらえるだけです)



ということでケーキを切って分けますが、ケーキによってはフェーブが入っているところがポコッと膨らんでいたり、切っている最中に見えてしまったりします。そのため、一番年下の人がケーキが見えないように机の下にもぐります。そしてほかの人はケーキを切り、「このパートは誰の?」と言って、ケーキが見えない一番年下の人はランダムに名前を言っていきます。これでするをせずに平等にケーキが分けられるのです。

私のホストファミリーの中では、私が一番年下だったので私が毎回机の下にもぐりました。「毎回」と書いたのは、1月6日に限らず、この時期は3回くらいこのケーキを食べるからです。幸い私も一回フェーブを当てることができました

ちなみに、この日に家の中にあったあの巨大クリスマスツリーを解体しました。まずは飾り付けを外してから、枝を切り、外で残りを細かく切ってしばらく乾かし、暖炉の薪にします。

スキーウィーク

2月は、スキーをたくさんしました。今年は雪が例年に比べて少なく、残念ながら土が出ている部分が多かったです。それでも楽しかったです。面白いなと思ったのは、フランスでは「スキー」と一口に言っても、斜面を滑るアルペンスキーとは限らないことです。平らなところをスキー板で走るクロスカンリースキーや、斜面をスキー板で登る山スキーも、頻繁にやっている人が多く人気です。私は、アルペンスキーを AFS の留学生たちと5日間、クロスカンリースキーをホストファザーと2回しました。山に住んでいてスキー場が近くにあるため、ホストファミリーはいつもスキーをするときは、わざわざ泊まらず、朝に車で行って、夕方に帰ってくる、というような感じです。

クロスカンリースキーは初めてで、ホストファザーに習いました。まっすぐ進むのが難しかったです。周りはみんな私の3倍くらい速くて、スイスイ滑っていました。ホストファザーに教えてもらったあとはレベルが違うので分かれて滑りましたが、私が初級者コース3kmを滑る時間でホストファザーは上級者コース8kmを滑っていました…

私は、途中で同じくらいのスピードで進むご年配の女性と目が合い、微笑まれました。私も微笑み返しました。何にも言葉を発しなくても「お互い遅い同士、がんばってるのね」のような感じで通じ合えた気がして嬉しかったです。

最終的には周りの二分の一くらいのスピードになりました。少し進歩できて嬉しかったし、新しいスポーツに挑戦できて良かったです。



AFS の留学生たちと行ったスキーウィークでは、アルペンスキーを選びました。すごく楽しかったです。アイスランド、アメリカ、ノルウェー、スペイン、カナダ、イタリア、ベネズエラ、メキシコ、ホンジュラス、コスタリカ、アルゼンチン、タイ、日本からの留学生と一緒に過ごしました。

ここでひとつ、ラテン系はハイテンション、という噂は本当でした。今回は約半分の人がラテンアメリカ系でしたが、少なくとも、ここにいたラテンアメリカ出身の人たちは漏れなく、全員にフレンドリーでその場を盛り上げていました。本当にそのエネルギーとオープンマインドさに圧倒されると同時に、尊敬しました。また、スペイン語を話す人たちなので、フランス語でもなく英語でもなくスペイン語が飛び交っていました。私は今、学校でスペイン語を勉強しているので、習ったスペイン語を話したら喜んでくれました。

この期間にアイスランド人の留学生と話して、今までアイスランドの文化や郷土料理、言語などについて全く知らなかったのが遠い国のように感じていたのですが、その国やその人自身を知っていくことによって興味が湧き、アイスランドがより近い国のようになった気がしました。

このような感じで、違う国の人と実際に出会って話しあうことでその国が心理的に近くなり、これを多くの人が色々な国の人たちと繰り返せば、皆が世界中の国を近い存在と感じ、世界各国同士が親密な関係になり、「お互いを理解し尊重する」の域を超えたところで戦争など起きなくなるのかな、なんて想像しました。

これはインターネットや本で調べてその国について知っていても得られない、世界中の人に会うことで得られる特別な心からのつながりだと思います。



À bientôt !